

JIA

MAGAZINE

283 AUGUST 2012



建築家
architects

●特集 **建築・都市のパラダイムシフト—ライフスタイルの転換③**

その場所の材料と工法と自分たちの手で建物をつくる
ビジョイ・ジェイン(スタジオ・ムンバイ代表)

●支部便り
関東甲信越支部

JIA 建築家大会 2012 横浜

25周年記念大会



日時:2012年11月29日(木)、30日(金)、12月1日(土)

場所:神奈川県横浜市 神奈川県民ホール、横浜市開港記念会館、BankART Studio NYK

横浜大会で開催されるシンポジウム2つをご紹介します。シンポジウム名、開催日時は変更になる可能性があります。

シンポジウム

「日本版CABEを考える」



連 健夫(日本版CABE推進タスクフォース)

■シンポジウムの趣旨

建築や街づくりにおいて地域固有の特性を捉えることは大切であり、定性的な判断が求められるようになってきています。建築や街づくりが文化であるという認識を建築・まちづくり基本法と共に創っていくことが求められ、建築家の役割がより増してきている状況と言えます。日本におけるコミュニティーアーキテクトを根付かせるためには、英国のCABE (Commission for Architecture & Building Environment) が参考になります。日本においてCABEが実現するのであれば、どのような形が望ましいのかを明確にし、それに向かってアクションを起こす時期かと思われま

す。東日本大震災からの復興において、建築・街づくりの支援は急務であり、その意味でも、JIA横浜大会の開かれた場において、日本版CABEについて皆さんと共に考えるシンポジウムを実施することになりました。ぜひ、ご参加いただければと思います。

■CABE

1999年、英国で建築や都市環境のデザイン評価、支援、助言をする機関として政府の手でCABEが設立されました。2005年には法定行政機関となっていますが、CABEのコメントやレビュー自体には法的拘束力はありません。しかしCABEの見解

はマスコミにも大きく扱われ、計画許可 (Planning Permission) が容易となる利点があるため、事業者も無視できない状況です。文化省と自治省が資金を提供し、CABEのスタッフは建築のみならず多様な分野の専門家で構成されています。

具体的活動内容は、

- ①デザインレビュー：実際に建設される建築の質を高めるための助言をする。建築行為や開発を行う側が、その内容をプレゼンテーションし、それに対して第三者の専門家のアドバイスを受け、質を向上させる仕組みです。そのアドバイスに沿ってデザインしたものはCABEでレビューを受けたものとして評価されます
- ②イネプリング(実現支援)：地方行政機関の計画策定やデザインに関する施策をサポートします。公共施設や都市計画などについて、コンペの要項づくり、審査委員選抜などを含め支援をします。実際の計画を地方自治体から依頼され計画することもあります。
- ③学習と開発：建築や街づくりについての教育、出版、研究事業などを実施しています。CABE内に設けられたスペースで活動内容が公開展示されています。出版やWebによる広報活動も実施しています。

■時代背景と問題意識

日本では1993年の新都市計画法において、市民参加が奨励され、各地で市民参加のまちづくりが実施されるようになりました。各地でまちづくり協議会が設置され、地区計画が制定される気運が高まっています。今後、建築や街が文化であるとする定性的な判断が求められ、定性的、包括的で裁量性のある制度に近づくならば、それに参加できる職能として建築家の役割が増すと思われます。街づくりでボランティア的に活動している専門家の報酬の問題や、国ではなく地方自治体から出ていることによる子飼いの問題、公共建築におけるコンペのあり方の問題など、課題は山積しています。それらを解決する意味で、現行の制度にとらわれずに導入できる制度として、日本版CABE(建築・まちづくり支援機構)が求められています。

